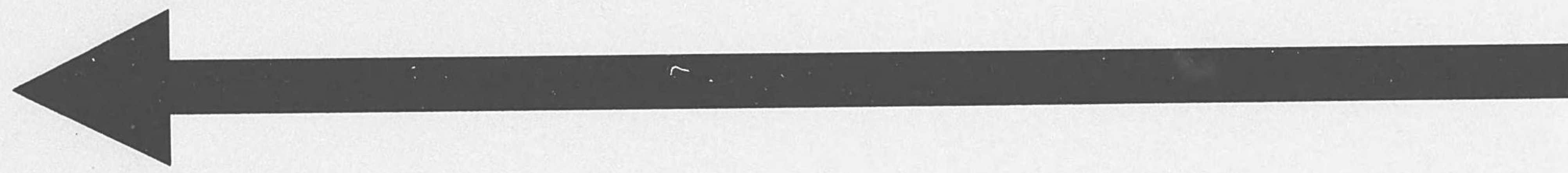
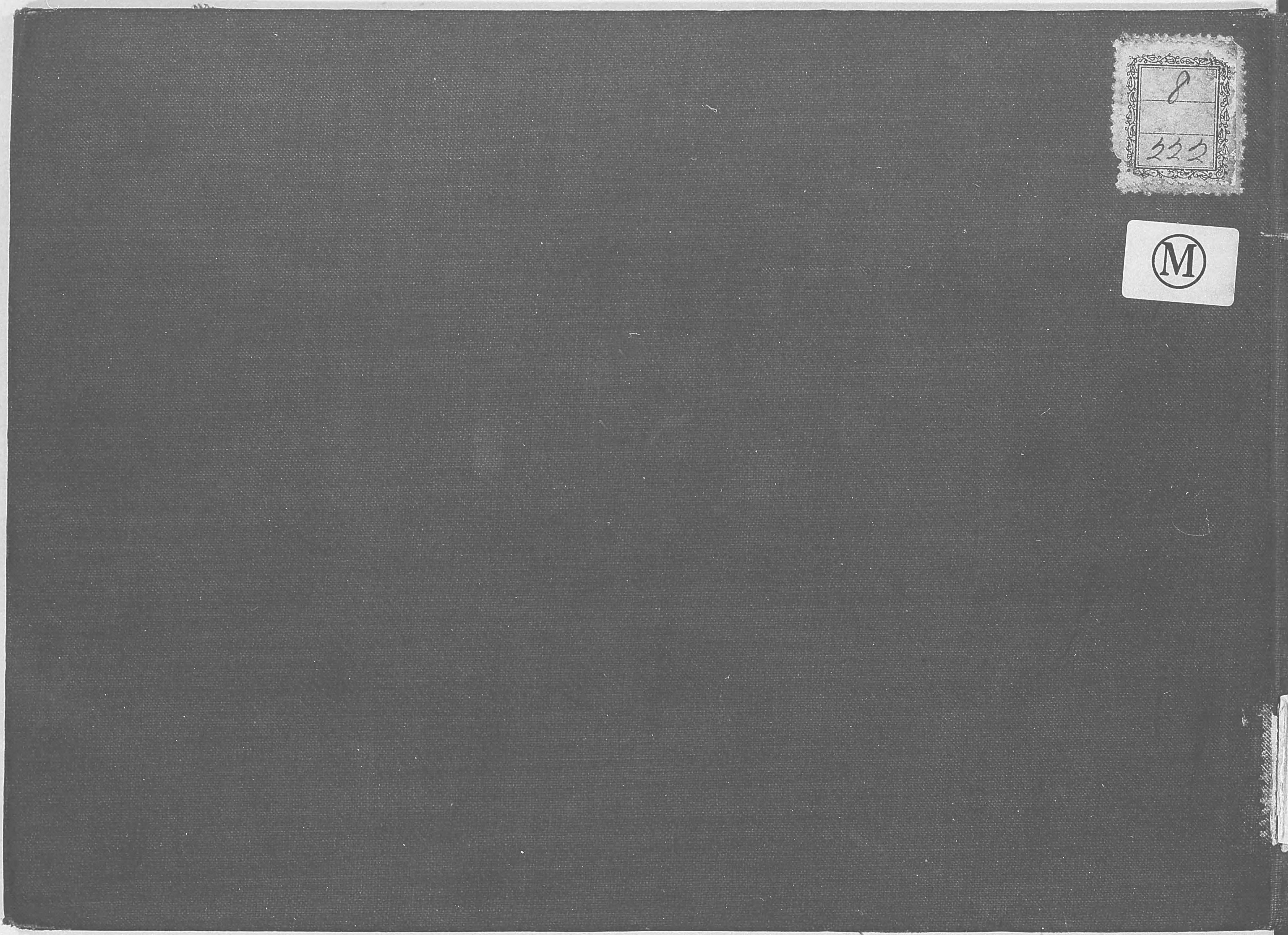


始





8
222

詠
純

家
土

産

甲

遊

卷



小
佛
峠



甲州街道に衝る海拔一千五
百八十五尺舊道は殆んど山
の中央を貫きて峻峻なり新
道は其南半里の所を開鑿し



小
佛
峠

甲州街道に衝る海拔一千五
百八十五尺舊道は殆んど山
の中央を貫きて峻峻なり新
道は其南半里の所を開鑿し
て馬車を通ず此頂を以て武
藏相模の國境とす永祿四年
武田信玄の北條氏と戈を交
るし所





小 將 村

藤林對の園竟多す永藤四年
 了。風車を並べ、地質を以て、海
 嶺に其南半里の裡を關鑿し
 の中央を貫ちて、劍劍より藤
 百八十正、只舊嶺に依りて山
 甲限、嶺の通る、嶺越一千正



甲州街道

音に聞ゆる山國なれ

ば道孰れも坂路稀れ

に坦道あるのみ然か

近時縣の土木事業

舉りて道路皆善し

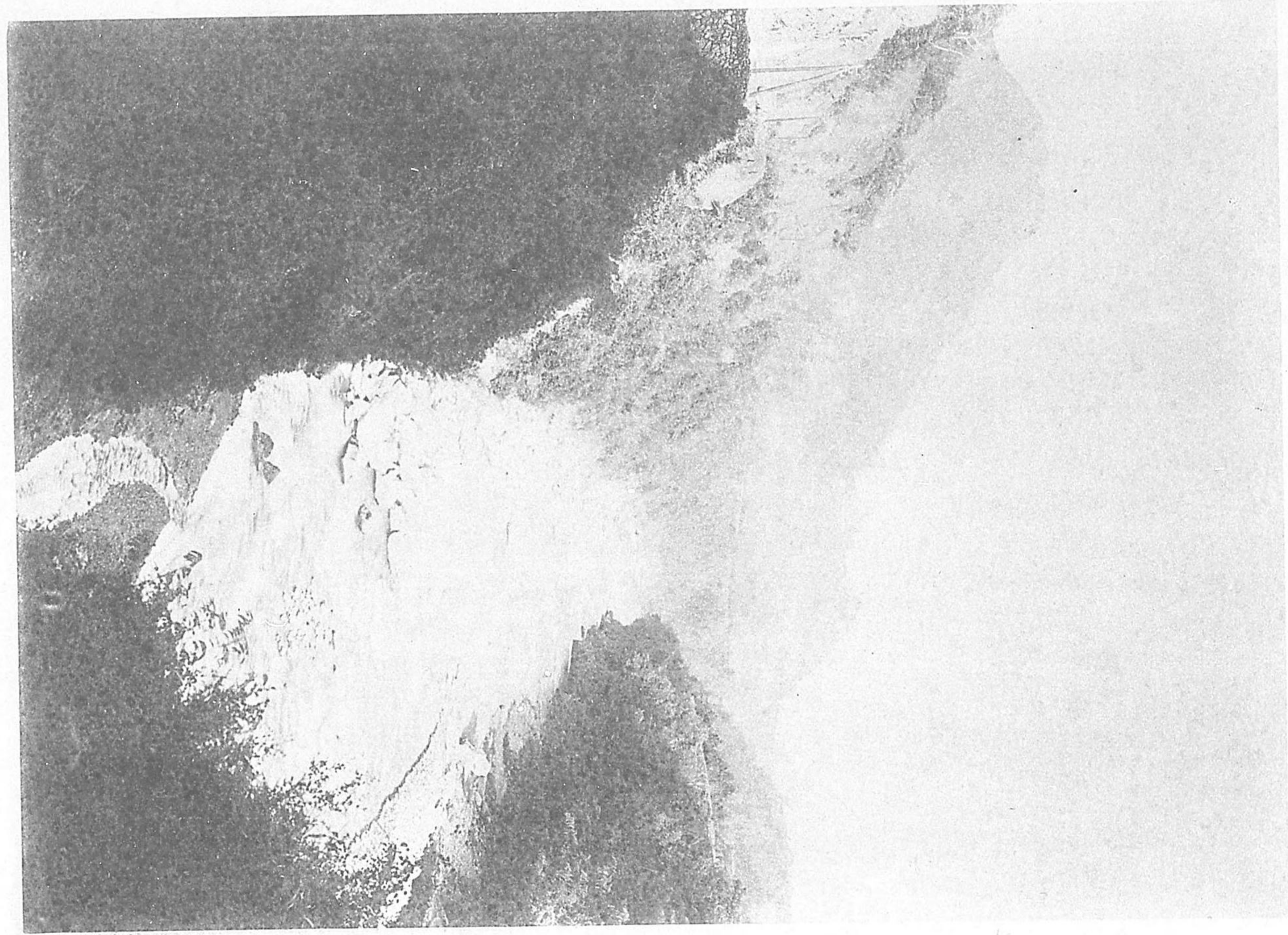


二世重なるのや然や

川童殿の世祖御

音二開のる山國よ

甲州御童

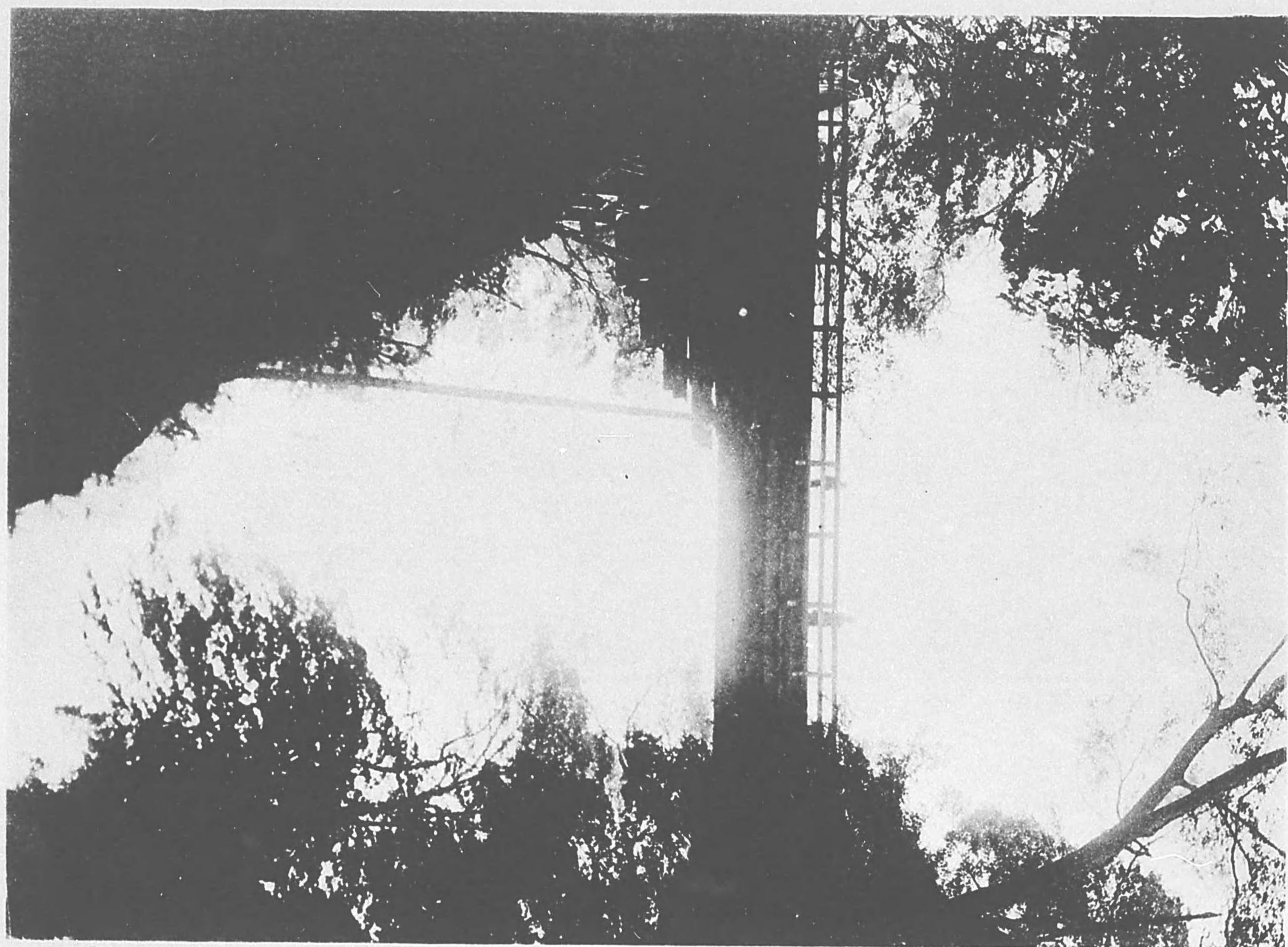


猿

橋



甲斐國北都留郡にあり桂
川の流れこゝに來りて最
も窄く兩岸相迫りて斷崖
壁立水勢最も急なり橋は
長十七間幅三間橋下支柱
なし唯兩端より漸次組み
合せゆきたるもの飛驒内
匠の作と傳ふ



景

景

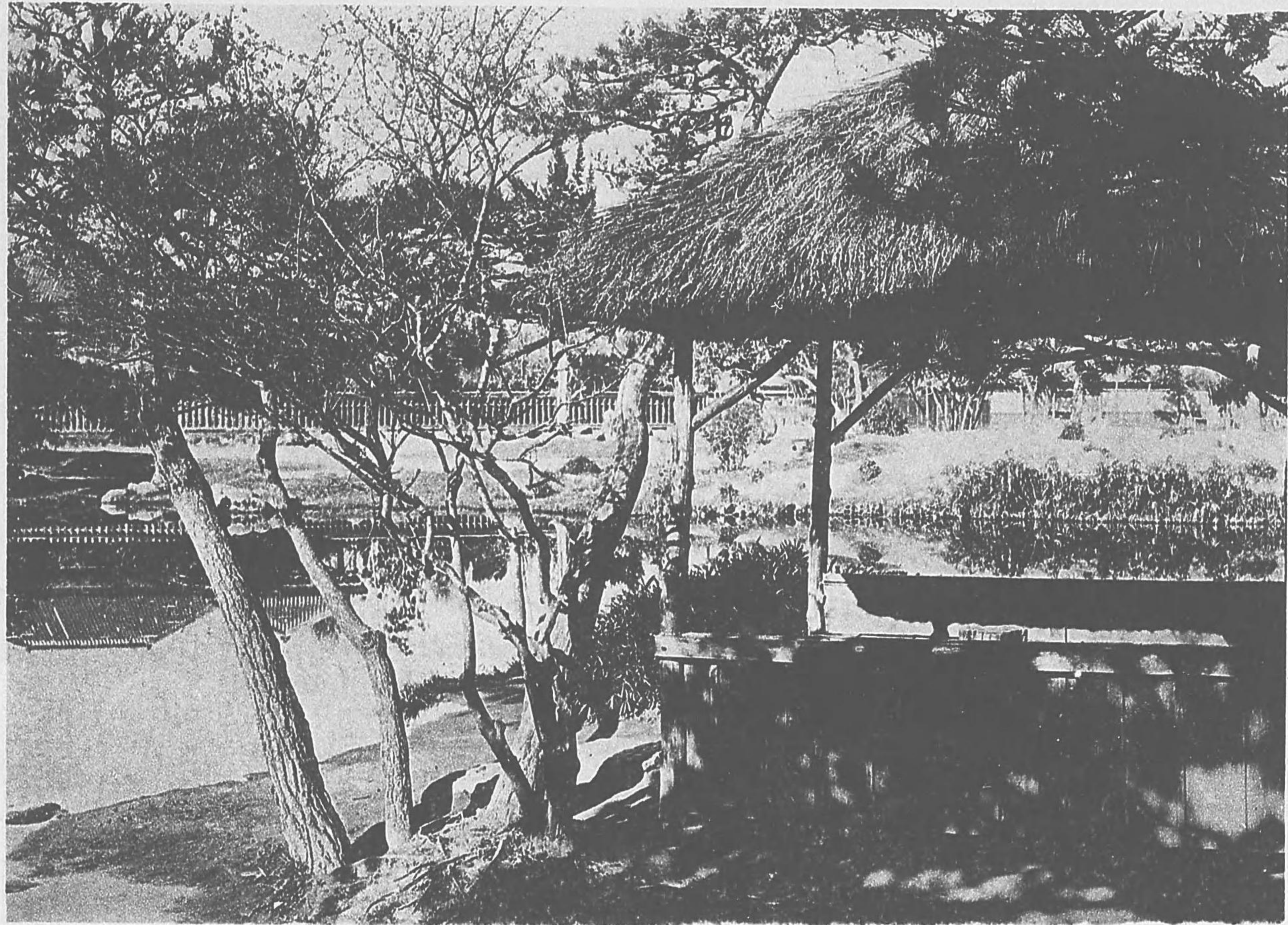
是十寸間三間辭す支封
經立水楚最の急より辭り
と穿く兩掌跡並りて禮儀
爪の跡より二ノ來りて最
甲斐國非清留淵ニあり封

甲府公園



甲府は山梨縣廳の在る所人
口三萬餘公園は市の南端に
あり廣袤約二萬坪多く梅櫻
を栽ゆ東北隅に郷社稻積神
社あり





甲 津 公 園



まじりぬき 二萬坪 芝 園
日三萬坪 公園 市の南 園
甲津 山 築 園 市 南 園
甲津 山 築 園 市 南 園

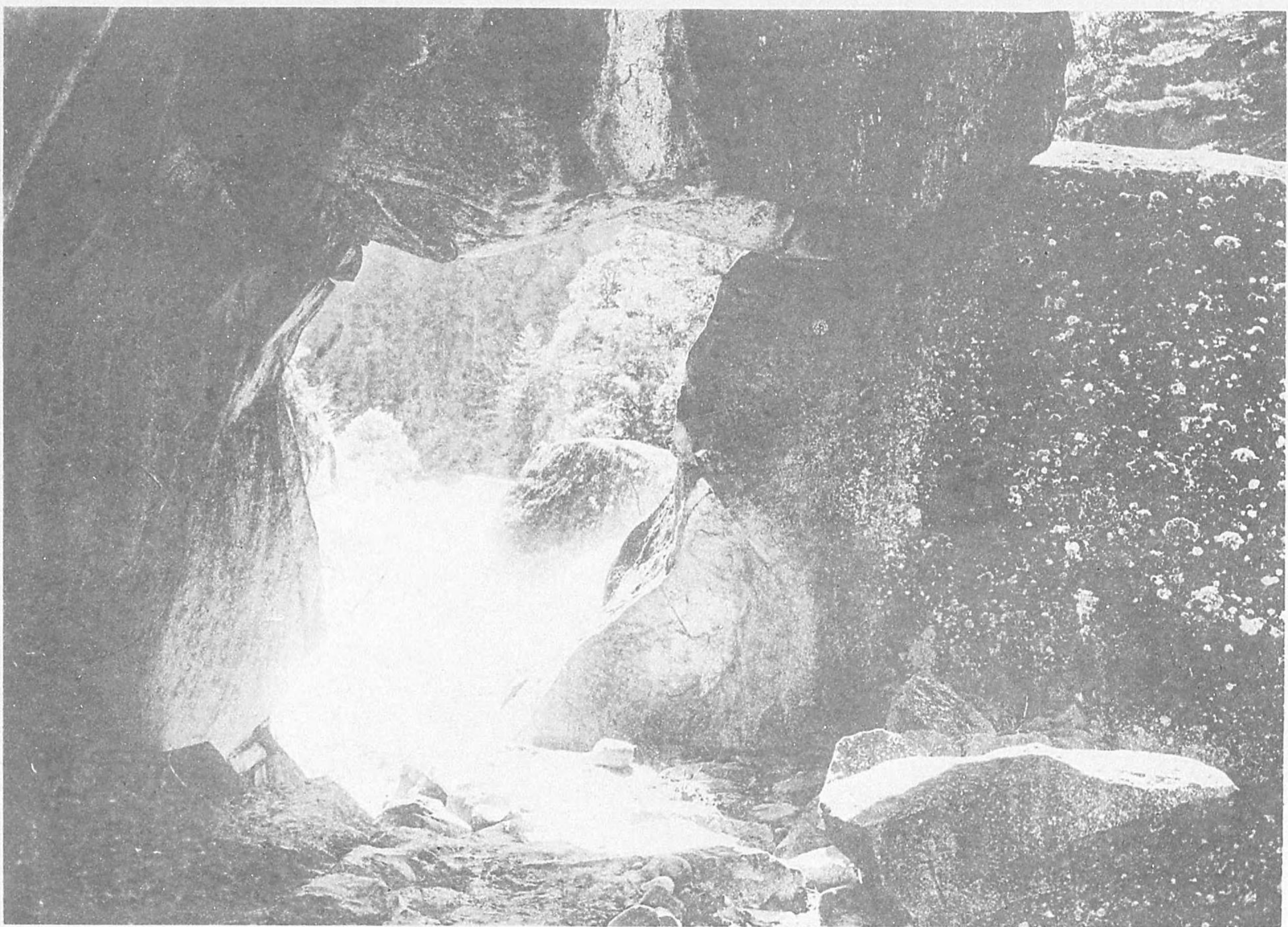
御嶽洞門

所謂昇仙峽の絶勝あるところの御嶽山は甲府を去ること北四里にして近し鹽邊の村小流の橋を過ぎ關屋千塚の村を歴て常に荒川の右岸に傍ふて行く山様水態畫圖も若かず龜澤の川に沿ふて巨巖山北岳禪寺あり青嶂缺くるところ伽藍を舍み亦た畫中の物溪に沿ふて兩山の間を行く左右の山皆な板石古樹舞ふがごとく空外に懸る峰の高きもの長竿の如く巒の低きもの覆荷の如く層水類嵐曲々として路窮まるがごとくにして復た通ず行くこと十四五町程忽ち驚く巨巖磊々斗出し路を壓するを下に一岩あり石脚地に入り荷糶して僅かにこれを支ふ自然に洞門をなす……

……
麗水日本名勝記

嵯峨岡門

の山背に殊に古樹叢生せしこと、空想に懸
畫中の神鏡に當るや、兩山の間に谷を以て
幸あり青嶺、嶺を以て嵯峨と名を合せ、水
を導き、嵯峨の川に當るや、百瀬山、井谷、
二瀬川の谷、谷に當るや、谷に對し、水、
林、小流の跡を、巖を、關、壑、千、變、の、
甲、初、を、去、る、こ、と、井、四、里、に、し、て、
視、曠、長、山、地、の、跡、觀、る、と、こ、の、嵯、峨、山、也



昇
仙
橋



洞門より猶荒川

の急流に沿ひ進

むこと半里程に

して昇仙橋懸る





龍藏川



仙
蛾
瀧



昇仙橋の西畔に仙蛾の瀧
深樹中を穿ちて下る直下
三十尺行旅の客これに浴
して以て満身の臭汗を落
すによろし



上ノ山ノ麓ノ奥平ノ谷
三十八行旅ノ客ニハシテ
築中ニモ寝サズテ直ニ
長山ノ西ノ山ノ麓ノ麓



山
遊
記

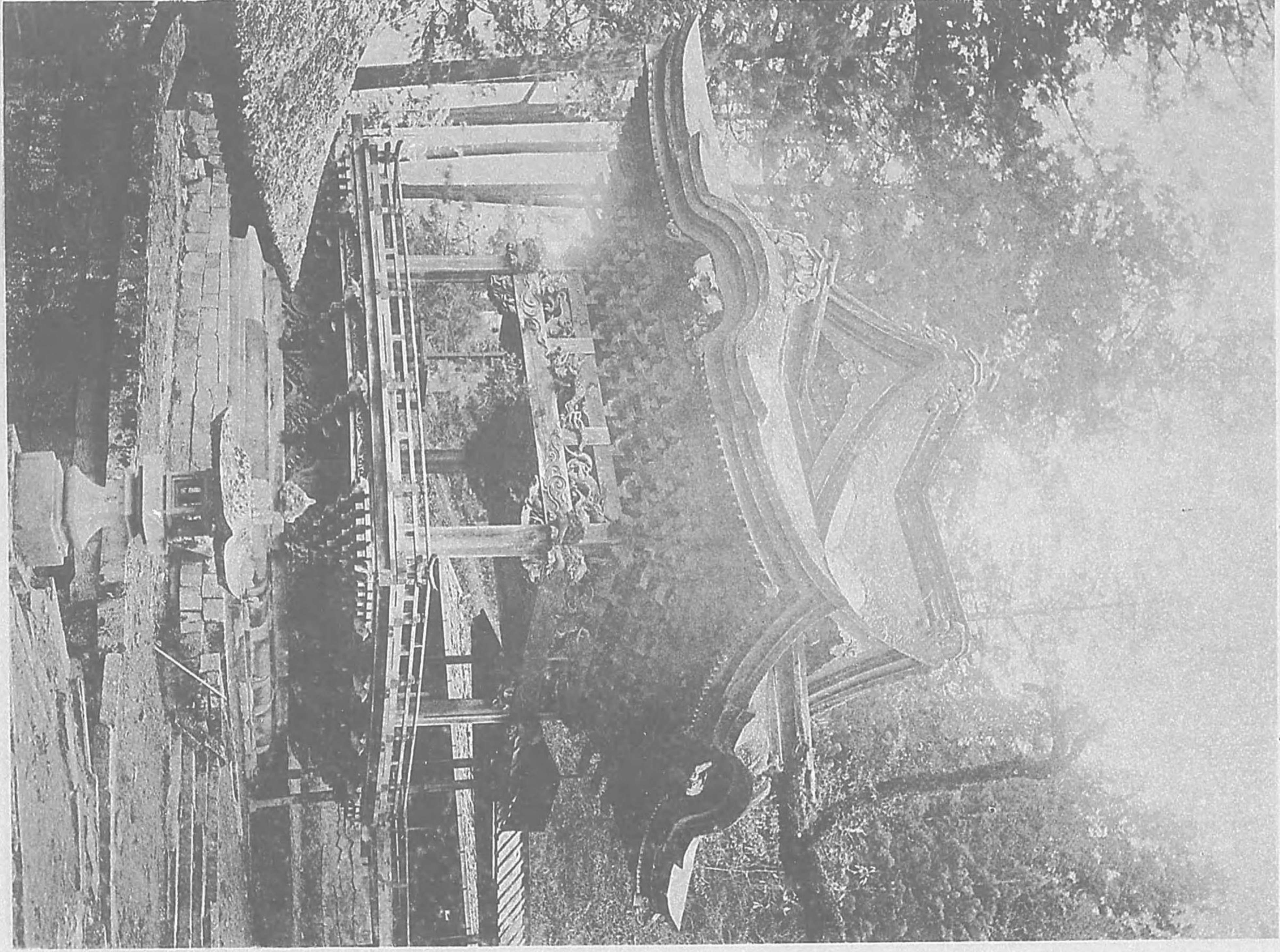


御嶽山金櫻神社神樂堂

昇仙峽の山水愈々進みて愈々奇絶これを耶馬溪に比して多く遜色を見ず終に猪狩の里を過ぎり宮本村に入り金櫻神社に詣る石階の上樓門あり正面に本社あり左に神樂堂寶庫等あり皆金碧燦爛たり社は雄略天皇朝の創立にして日本武尊少彦名尊素盞鳴尊を祀る境内老杉鬱鬱として延び社前に古櫻樹あり金櫻といふ

堂寶車等あり昔金磐獄獄六
 五面ニ本振まり式ニ轉樂
 轉振ニ備ふ百韻の土對門あ
 る蘇ちり宮本林ニ入り金磐
 蘇蘇を良き蘇ニ蘇蘇の里
 蘇ニ外を罪誦蘇ニ出り了冬
 畏山地の山水愈蘇べ了愈蘇

嶗嶽山金對轉振樂堂



鰈



澤

甲府を距る四里餘にして

富士川の西岸にあり富士

川の急瀬十八里を五時間

にして岩淵に達するの船

は即纜をこゝに解くなり





燃



翠

川の急瀬十八里を正和間
富士川の西岸にあり富士
甲府を隔て四里繪にす

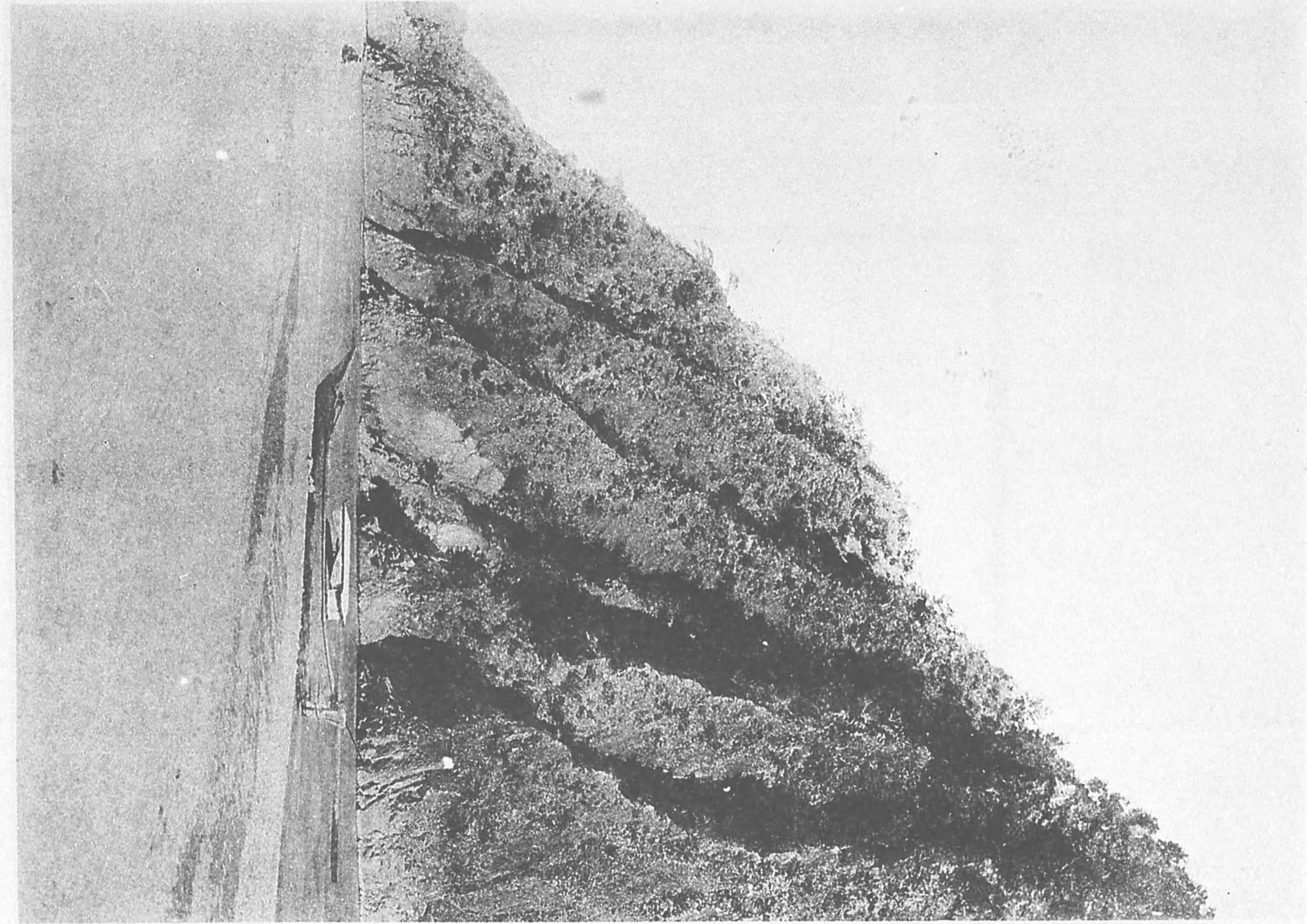
富士川屏風岩

早川の長流走りて富士川に入るのころ屏風岩なるもの時つ岸皆な蒼岸宛然六摺屏風其の下船路最も險惡富士川の水は早川の水を吞て盡さず相滾轉して横まに屏風が岩に激す

巖狂靈狼水中の石皆な動く箭師自若として水石と格闘して舟を行る舟中の人氣魄皆な動く其の出で、深水の緩やかなるを度るに及びて竊かに相顧みて満腔の氣を吐く……………日本名勝記

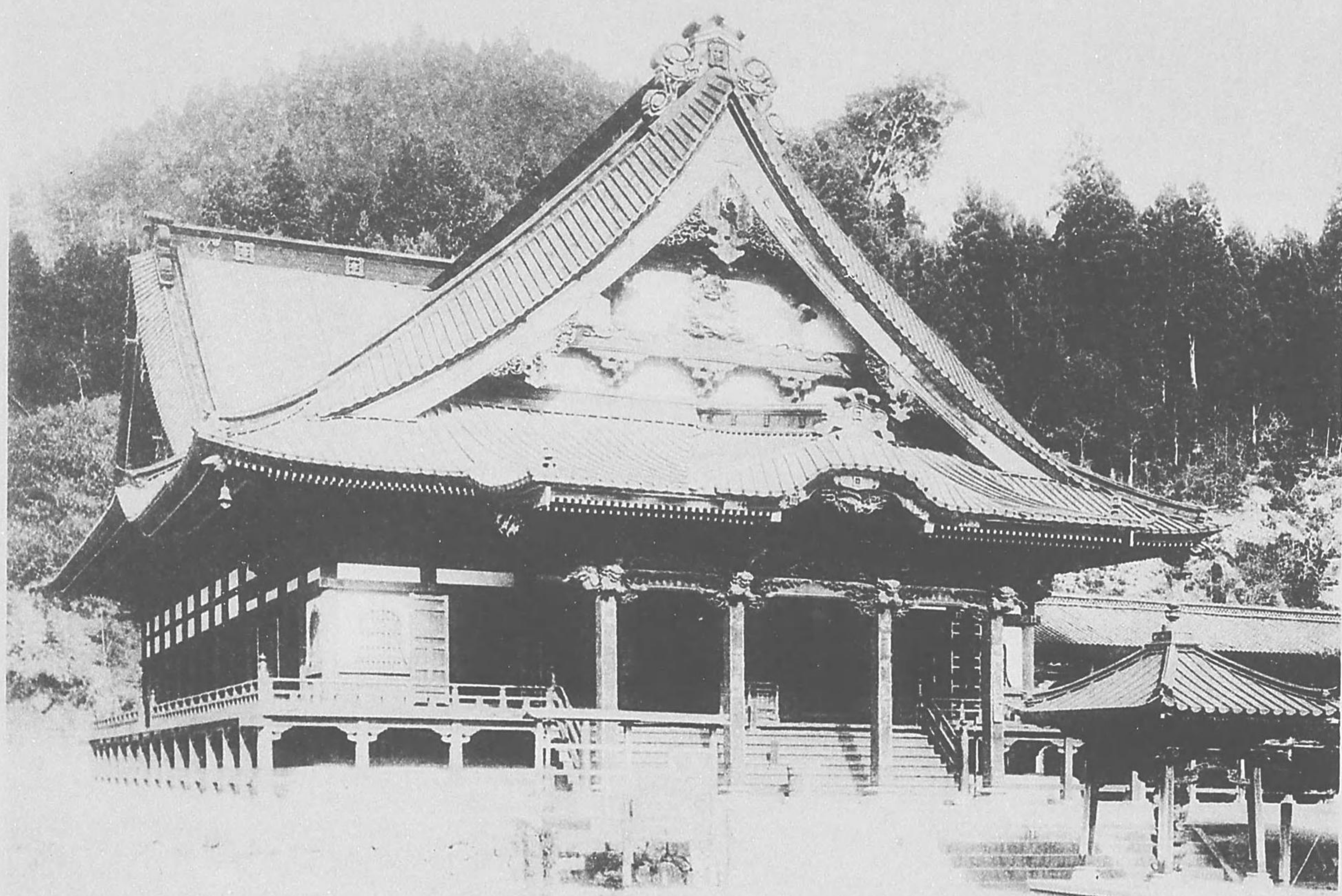
懸崖懸崖水中の巨岩を仰ぐ
 聯して對する巖風の岩の巖
 對早川の水を谷へ流す巖
 の不強弱の巖懸富士川の水
 の岩壁を流す巖然六巖巖風其
 るの巖の巖風巖を巖の巖
 早川の巖流巖して富士川に入

富士川巖風岩



身延山久遠寺

身延山久遠寺は古昔の叢夫の里にあり實に日蓮宗の總本山なり甲府の南九里餘饗客は甲府より四里半にして鵜澤に至り船を僦ふて富士川を下り波木井より上陸するを捷路とす波木井より久遠寺に至る約一里日蓮上人曾て庵を構へ教化す弘安四年一堂を舊庵の邊に立つこれ久遠寺の始めなり今二百八十七級の石磴を登れば二天門其内に三堂本堂祖師堂等あり孰れも丹碧莊嚴の靈境たり



良城山八藪寺

曾ノ御ヲ辨ヘ煇升ヲ居定四半一堂ヲ
共ノハ八藪寺ニ至ル時一里日藪土人
茲木共ノハ土割ヲサキ對稱シテ茲木
總管ニ至リ體ヲ繪ルテ富士川ヲ下リ
大里納賽客ヲ甲州ヨリ四里半ニシテ
ハ實ニ日藪宗ノ縣本山ナリ甲州ノ南
良城山八藪寺ヲ古昔ノ養夫ノ里ニシ

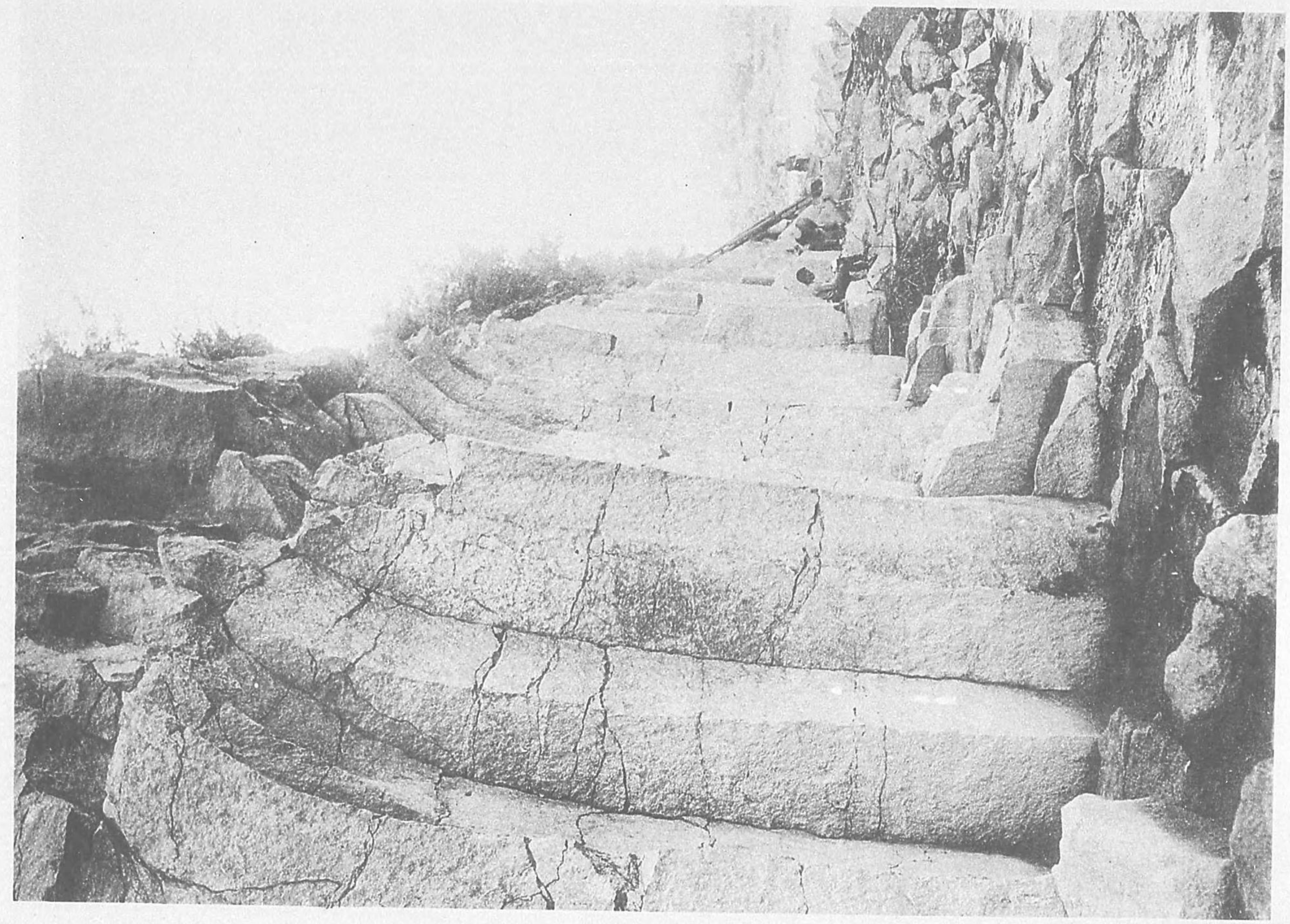
富士川俵石

更に苞石なるものあり大石の米苞の如きもの累々として相重なる其色紫潤鐵の如し亦た一奇觀………

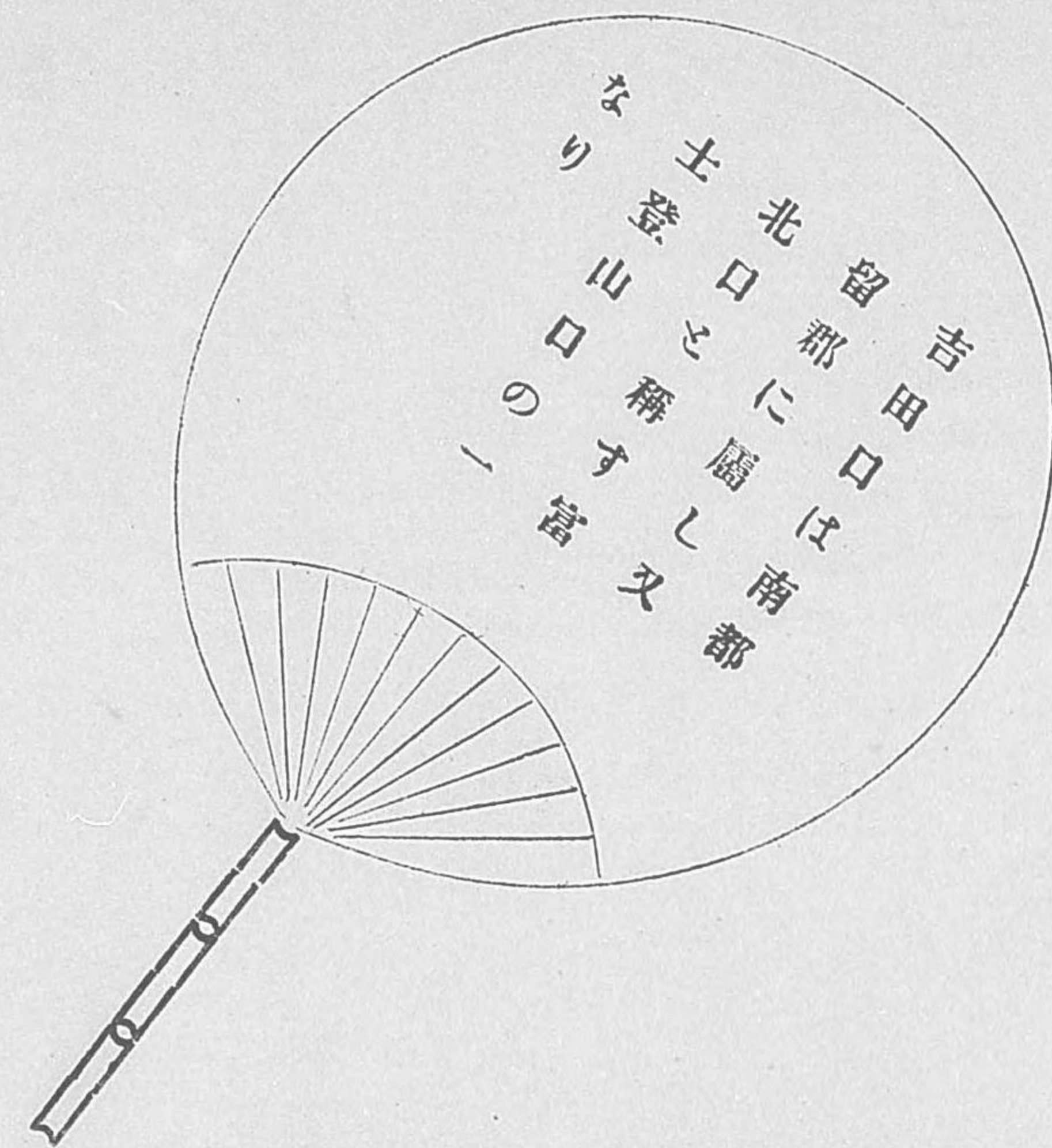
………日本名勝記

富士川廻石

おる其母業斷繼の味
の果々シ丁味重
い大石の米苗の味香
更ニ苗石おる味のさ



吉田口の富士







吉田口の富士



御坂峠の富士



駿河國東八代南都留二郡
の境に在りて河口村に屬
し富士見三景の一なり嶺
上より望むに河口湖の水
色靨の如く鷗島あり乳が
崎あり富岳南に聳へて其
影湖面に映じ恰かも白扇
水に泛ぶの觀をなす





富士の富士



富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士
富士の富士

明治卅二年三月一日印刷

明治卅二年三月五日發行
十三 (旅の家土産第十三號)

(非賣品)

東京市赤坂區田町七丁目四番地
光村方寄留

發行兼印刷者 中尾新太郎

東京市赤坂區田町七丁目四番地

發行所 光村寫真部

東京市赤坂區田町七丁目四番地

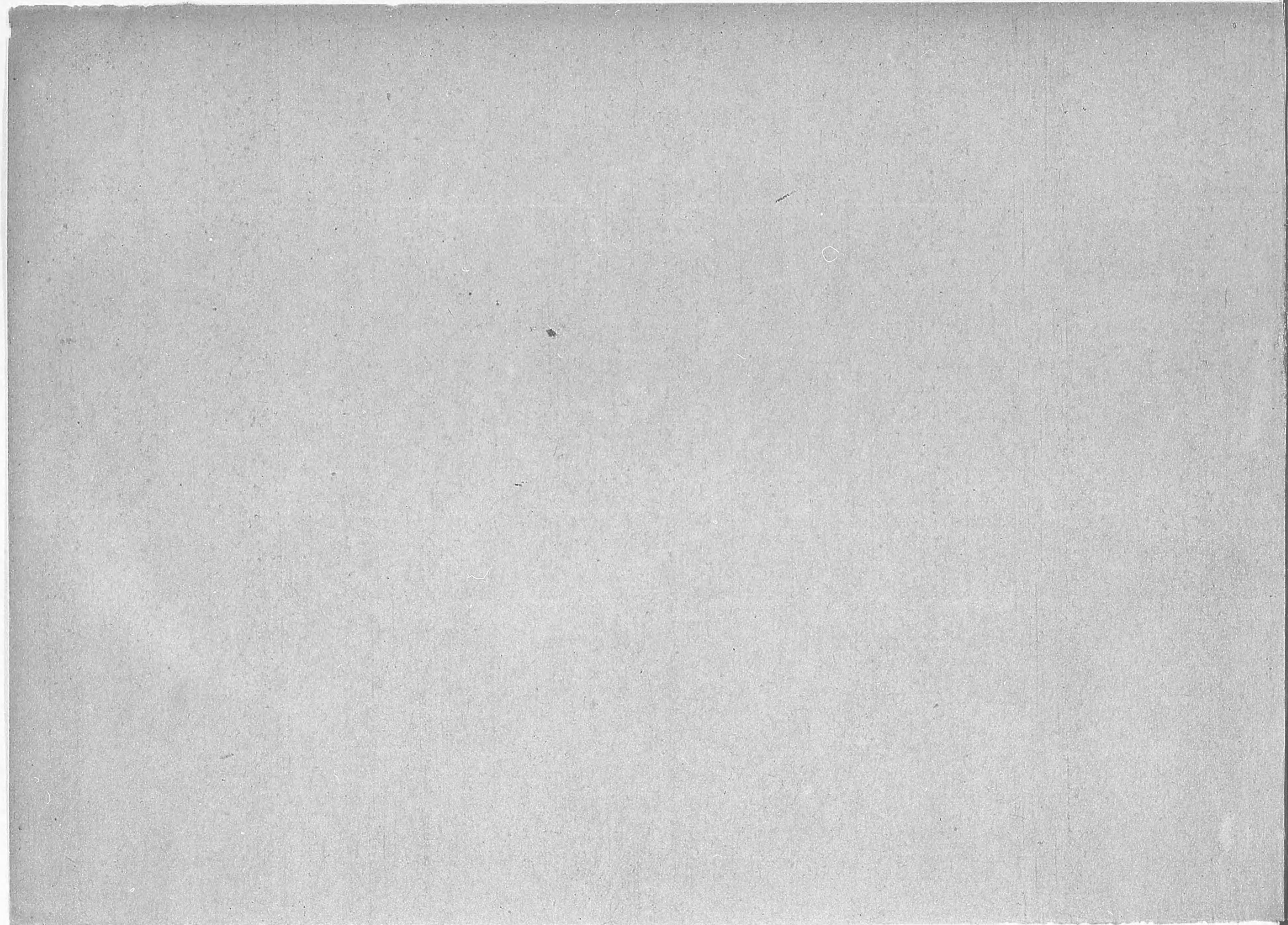
印刷所 光村寫真製版部

8
222





兵庫町金印



利印子金町漆庫兵

8
222

終